

悪性腫瘍

悪性腫瘍とは、からだの一部の細胞が突然変異をおこして、無秩序に増殖を始め、他の組織との境界に侵入したり（浸潤）、あるいは転移し、身体の各所で増大することで、宿主の生命を脅かす腫瘍です。

一般に癌（がん、英 Cancer、独 Krebs：語源はラテン語でカニの意です）は、悪性新生物（英 Malignant neoplasm）とも呼ばれます。

病理学的には、上皮組織由来のものを癌腫、非上皮組織由来のものを肉腫と区別します。

疫学：日本で1年間（平成23年）に、約125万3000人が亡くなっていますが、その中の約35万7000人が、がんによるもので、昭和56年以来、死亡順位の1位を占め、上昇傾向です。男性では60歳代、女性では50歳代が最多です。

平均寿命の高齢化により、一生涯に2人に1人はがんに罹り、3人に1人はがんで死亡すると言われています。

■がんによる死亡順位（平成23年）

1. 肺がん	7万人
2. 胃がん	5万人
3. 大腸がん	4. 6万人
4. 肝がん	3. 2万人
5. 膵がん	2. 9万人
6. 胆道がん	1. 8万人
7. 乳がん	1. 3万人
8. 食道がん	1. 2万人
9. 前立腺がん	1. 1万人
10. 悪性リンパ腫	1万人



（死亡順位は、性別で違ってきます。消化器がんが全体の約2/3を占めます。）

■2020年の日本のがん罹患に関する推計

年間84万人（男性50万人、女性34万人）が、がんになると推計されています。

○男性

・肺がん	9万人
・大腸がん	8. 5万人
・前立腺がん	8万人
・胃がん	7万人

○女性

・大腸がん	7万人
・乳がん	5万人
・胃がん	4万人
・肺がん	3. 5万人

・肝がん	3万人	・子宮がん	2.5万人
・食道がん	2.5万人	・肝がん	1.5万人
	など		など

男女共に、大腸がんが急増する見込みです。

■発生要因

1. 遺伝子の変異：乳がん・子宮がん・大腸がん・腎がんなど
2. 病因微生物：肝細胞癌—B型およびC型肝炎ウイルス
子宮頸がん—ヒトパピローマウイルス
胃がん・胃MALTリンパ腫—ピロリ菌
3. 環境と食事：タバコ
紫外線
アルコール
熱い飲食物
食塩
欧米食（脂肪に富んだ肉類・高カロリー）



上記のような慢性の刺激が、がん発生の主因となります。

■がん対策の目標（がん予防）

- 1) 節煙、出来れば禁煙（副流煙—受動喫煙の排除）
- 2) 食塩摂取量を9g／日未満
- 3) 野菜の平均摂取量を350g／日以上
- 4) 果物を摂取する習慣を増やす
- 5) 食物中の脂肪の割合を25%以下
- 6) 純アルコールを60g／日以下（適量は20—30g）
- 7) がん検診受診

まとめ

種々のがんで、症状が出てからでは十分な対応が出来ない場合があります。定期的な検診にて、早期の段階で発見されれば、完治しますので、最低でも2年に1回（できれば年1回）は、死亡順位の高いがんの検診は受けたほうが良いでしょう。

診断法・治療法に関しては、種々のがんで特殊性がありますので、次回より概略をご説明していきます。